

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-813

③ 施設名等

名称	白十字会林間学校
施設長氏名	山川 信人
定員	50名
所在地(都道府県)	神奈川県
所在地(市町村以下)	
T E L	
U R L	

【施設の概要】

開設年月日	1950/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人白十字会林間学校
職員数 常勤職員	31名
職員数 非常勤職員	13名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数	9名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数	12名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（オ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（カ）	調理師
上記有資格職員の人数	2名
施設設備の概要（ア）居室数	幼児寮1、男子寮2、混合寮3
施設設備の概要（イ）設備等	交流ホール、親子訓練室、子育て支援室
施設設備の概要（ウ）	心理スペース、食堂、講堂、診察室
施設設備の概要（エ）	

④ 理念・基本方針

<理念>

白十字会林間学校の理念は、「子どもたちを豊かに愛すること」です。多く愛された子は、多く愛する力を持つようになります。豊かに愛されることで、その子に自分を大切する心が生まれ、人を愛する心が育ちます。この心が自立への大きな力になり、生きる土台になると考えています。

<支援方針>

- ・子どもが居場所として感じられる安全な生活を守る。
- ・一人ひとりを大切に支援し、それぞれの生き方を支える。
- ・一人ひとりの目指す自立を支援する。

⑤ 施設の特徴的な取組

○「白十字会林間学校生活支援要綱」や「倫理綱領」「林間生活ガイドブック」などを整え、職員には基本的支援の周知を、子どもたちには基本的生活のあり方を示している。様々な背景を持った子どもたち一人ひとりを受け止めながら、ルールにはあまりとらわれず、どのような状況でも受け入れる姿勢を保っている。子どもには、悪いことは悪いと伝え、その行動の背景や心の中を見つめるようにしている。職員のチームワークの良さを大切に、子どもへの支援がばらばらにならないよう、同じ方向を向いて支援することを柱としている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/5/10
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/9
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦総評

○「子どもたちを豊かに愛すること」を理念に掲げ、様々な理由で家庭での生活が困難な子どもたちの養育・自立を目的としている。子どもたちは、幼児寮や男子寮、女子と小学生男子の混合寮など6つの寮で、日々の生活を送っている。

○子どもの主体性を尊重し、職員が統一した支援を提供できるよう、職員会議で話し合いを行っている。子どもたちは、子ども会議の場で、自分たちの問題を話し合っている。アルバイトには特に縛りを設けず、子どもの希望を尊重している。子どもたちは門限の時間を守りながら、自分で判断して行動している。

○子どもの様子に変化がある時は、グループ会議で「本人に起こっている現象や背景」を協議、共有して見守っている。子どもを理解するため、受け入れるまでの経緯を職員会議で共有し、生育歴を年表にして記録している。

○「自立支援計画の手順書」に沿って、個々の発達段階に応じた養育の計画を立て、年度途中のニーズについては、グループ会議や運営会議で検討している。塾や通信媒体での学び、地域のサッカーチームやドラム教室に通うなど、外部の資源も活用している。パソコンは共用で使用できるようにしている。新聞や子ども新聞、図鑑の他、子どもが好む漫画本などを定期的に購入している。一人ひとりに自転車を用意し、スケートボードやサッカーなどの道具を揃え、子どもたちは広い敷地で、のびのびと遊んでいる。

○日々の食事は、食堂で調理した物を各寮で温めて提供している。部活やアルバイトで遅くなる子どもにも、温かい食事を提供できるように配慮している。子どもたちは季節料理やイベント食、誕生日のリクエスト食などを楽しんでいる。

○進路については、子どもの希望を確認しながら、学校とも連携し、子どもに情報を提供している。進路決定が近付く頃には、より具体的に情報を提供しながら自己決定のサポートを行っている。

○林間生活ガイドブックに、「あらゆる暴力から守られている」ことを明記し、暴力の具体的な内容と範囲を示している。また、「自分も大事、他人も大事」として、自分と違う存在を認めることの大切さを示している。いじめや暴力などの実態把握も含め、年2回、子どもとの個別面談を実施している。

○臨床心理士を配置している。心理的ケアが必要な子どもは10人以上おり、児童相談所とも連携しながら、面接室やプレイルーム、グループワーク室を適宜利用しながら、臨床心理士がプレイセラピーやカウンセリングを行っている。

○家庭支援専門相談員を中心に、親子関係の再構築を支援している。施設内の親子支援室での家族宿泊や、一時帰宅で、家族関係の再構築に取り組んでいる。家庭への外泊については、短期間から少しずつ日数を増やし、子どもの様子を確認しながら対応している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を実施させていただき、改めて、私たちの業務を振り返る良い機会にさせていただきました。今後も、理念や支援方針をもとに、職員一人ひとりが自覚を持って子どもたちを支援していきたいと思っております。また、生活支援要綱を職員で作らせていく過程を大切に、チーム養育を目指していきたいです。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されたとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

理念や支援方針は、ホームページやパンフレットに掲載する他、職員の支援の基本を定めた「白十字会林間学校の運営」や「白十字会林間学校生活支援要綱」の冒頭に記載している。月1回開催する職員会議で、理念や方針の読み合わせを行っている。また、年3～4回、朝の打ち合わせの後に、生活支援要綱週間を設け、要綱の細目について全職員で意見交換を行っている。3～4月にかけて、3日間の新任職員研修を開催し、その中で施設長が理念や支援方針の話をしている。子どもや保護者には、入所の際に「生活の手引き」により説明しているが、周知は充分でないと感じている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

国や県の施設長会に施設長が参加して、社会福祉事業全体の動向について把握している。施設長が県児童福祉施設協議会の会長を担っており、児童養護施設以外の部会にも参加することから、他の分野の動向を把握する機会がある。小規模化や多機能化など必要な情報は、職員会議の場で職員に報告しているが、何に取り組むかは、今後の課題としている。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

経営に関しては、現在、大きな問題は発生していない。建物が古くなっているため、建て替えを視野に入れているが、資金面など課題を抱えている。インターネットのサイトも活用して、人材の確保に努め、毎週、施設見学を受け入れているが、人材の確保については、継続した課題と捉えている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

単年度の計画は書面として作成していないが、国のビジョンや県の計画に合わせて、社会的養育推進計画を策定している。児童養護施設の小規模化や地域分散化、多機能化などが求められているが、職員間のチームワークを大事にして取り組んでいく予定である。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度の計画に、重点取り組み事項を掲げている。今年度の重点取り組み事項は、①施設内虐待防止の取り組み～生活支援要綱の見直し～、②職員の資質向上とチーム養育の取り組み～園内研修・ケース発表会～、③家庭養育支援センター～フォスタリング機関としての里親子支援～の3項目をあげている。重点取り組み事項は、実行可能な具体的な内容として策定している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

施設長が中心になり、施設長や主任、副主任、リーダー、専門職が参加する週1回の運営会議で、皆で検討して、事業計画を策定している。また、事業計画は、「白十字会林間学校の運営」に反映している。3月の職員会議の場で、内容を職員に説明している。「白十字会林間学校の運営」と「白十字会林間学校生活支援要綱」は、全職員に配布して、周知を図っている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

職員の役割や配置、顔写真を、本館の1階に掲示して、子どもや保護者がいつでも確認することができるようにしている。新しい職員が入職した時は、寮にも掲示している。事業計画書は子どもや保護者には、配布していない。行事などの案内は、その都度行っている。約8割の保護者の面会があり、子どもたちへのプレゼントの注意点など、プリントを用意して説明している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b

<input type="checkbox"/>	組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
<input type="checkbox"/>	定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

全国児童養護施設協議会が作成した人権チェックリストに取り組んでいる。施設用を年1回、個人用は春と秋の年2回、行っている。また、5年前より、施設独自の自己評価表を職種別に作成し、年1回、上司との個人面談の前に職員が取り組んでいる。自己評価表には、子どもに対すること、自分に関することなどの項目がある。自己評価と第三者評価の結果については、主に施設長や主任、副主任が分析、検討して、職員会議で職員に報告している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/>	職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
<input type="checkbox"/>	評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

自己評価や第三者評価、日々の支援の中であがった課題や改善点は、週1回開催する運営会議で改善策を検討している。内容は「白十字会林間学校の運営」に反映している。ただし、すぐにすべてには取り組むことができないため、2～3の改善策をピックアップして、「白十字会林間学校の運営」や「白十字会林間学校生活支援要綱」に組み込んでいる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長の役割や責任は、法人の「職務分掌」に記載している。また、ホームページでも表明している。職員会議では、毎回、施設長からの話の時間を設け、職員に話をしている。「白十字会林間学校の運営」や「白十字会林間学校生活支援要綱」でも役割や責任を明確にしている。施設長が不在の時は、主任か副主任のどちらかが勤務するようにしている。また、携帯電話でいつでも連絡が取れるようにしている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
--	---	-----------------------

【コメント】

国や県の施設長会、県児童福祉施設協議会などで入手した情報は、運営会議や職員会議で、施設長から職員に報告して周知している。権利侵害にあたるケースなどが発生した場合は、施設長や心理士、人権擁護の専門家である理事などで構成する賞罰委員会を招集して対応している。また、必要に応じて、顧問弁護士に相談ができる体制を整えている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

朝の打ち合わせ会や運営会議、園内カンファレンス、自立支援検討会議などに、施設長が出席している。また、園内研修や外部研修も担当している。コロナ禍前は、子どもたちと一緒に食事を摂っていたが、コロナ禍後はそれもできず、子どもたちの日常の様子が見えにくくなっている。子どもたちの養育については、職員が4グループに分かれて、週1回グループ会議を開催し、子どもたち一人ひとりの支援内容を確認、検討している。チームワークを大切に、子どもへの支援がばらばらにならないよう、同じ方向を向いて支援するよう伝えている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

働きやすい職場作りとして、人員の配置数を増やしたり、断続勤務の中できちんと休憩時間を取ることができるよう配慮している。勤務表は各グループで作成し、施設長が全体をまとめ、有給休暇をきちんと取得するよう、職員会議で職員に話している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>

(社会的養護共通)

各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。

【コメント】

職員の募集は、施設長が担当して行っている。学校関係や求人サイト、神奈川県社会協議会の福祉のしごとなどを活用しているが、人員の確保については、他の施設同様、難しさが続き、何とか確保している状況である。保育士や指導員、女性職員の確保が厳しい現実がある。住み込みの勤務から、通勤勤務を増やすなど努力しているが、人材の確保、定着は今後も継続する課題であると捉えている。

②

15 総合的な人事管理が行われている。

b

法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。

人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。

一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。

職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。

把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。

【コメント】

独自に作成した職員の自己評価表の項目に、法人の理念に基づく、期待する職員像を明確にしている。「白十字会林間学校の運営」や「白十字会林間学校生活支援要綱」にも、職員の役割や期待する職員像を明示している。人事考課は、子どもたちの養育の現場には組み入れにくいので、取り入れていない。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①

16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

a

職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。

職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。

職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。

定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。

職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。

ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。

改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。

福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。

【コメント】

産休や育休明けなど、家庭の状況に応じて、時短勤務や就業時間帯の変更などを行っている。また、結婚した職員の日勤勤務を増やすなどの配慮も行っている。福利厚生として、インフルエンザの予防接種を希望する職員の費用を負担したり、職員の親睦会の費用の半額を施設が負担したりしている。グループ会議を大切に、職員同士が話し合える場作り、職員同士が相手を配慮することができる場作りを進めている。職員同士の関係が悪い環境は、子どもたちに対する虐待にあたると、施設長から職員に話している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①

17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。

a

施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。

個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。

	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

施設独自の職員の自己評価を年1回行い、併せて上司との個人面談を実施している。自己評価表には、職員の個人目標を立て、面談の場で振り返りを行っている。園内研修は施設長と心理士が担当し、外部研修は施設長と里親担当が調整している。園内研修は年4～5回、施設内虐待をテーマにしてグループ討議を行っている。外部研修は、職員の参加希望も受けている。また、自立援助ホームや知的障害児施設などの見学に職員を派遣している。各グループのリーダーがスーパーバイザーの役割を担い、グループ会議などを通して、職員の育成に取り組んでいる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

年間の事業計画の作成の際に、調整会議の場で、施設で必要とされるテーマ（重点取り組み事項）を検討している。園内研修は施設長と心理士が担当し、外部研修は施設長と里親担当が調整している。園内研修は年4～5回、施設内虐待をテーマにしてグループ討議を行っている。外部研修は、職員の参加希望も受け、職員は年1～3回、外部研修に参加している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員にとって必要な研修や、職員自身の希望で参加できる研修を確保している。研修の案内は、職員に回覧して周知している。外部研修に参加した職員は、研修報告書を提出し、職員会議で内容を報告している。報告書は綴って、いつでも職員が確認できるようにしている。グループリーダーの他、施設長や主任、副主任、心理士も、スーパーバイザー的な役割を担っている。OJTを行うため、新任の職員が一人で勤務しないよう配慮している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○

<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

副主任を窓口として、実習生の受け入れを行っている。現在、保育士を目指す学生を中心に、6～7校から、12名ほどの実習生を受け入れている。実習生に対する方針や取り組みは明文化し、毎回、プログラムを立てている。実習期間中に、里親支援専門相談員や看護師、心理士、栄養士、家庭支援専門相談員から説明を受ける時間も設けている。実習に不安を抱える学生には、実習前の福祉施設体験を行っている。実習生の受け入れは、職員の負担もあるが、職員にとっても勉強の場になることから、今後も、同じくらいの人数の実習生を受け入れていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

ホームページを活用して、運営の透明性を確保する情報公開を行っている。地域に向けての広報誌は作成していないが、地域の社会福祉協議会や青少年育成協議会、民生委員・児童委員の施設見学の際は、施設の内容や養育・支援のあり方などを説明している。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【コメント】

事務や経理、取引などに関するルールは、「事務・会計等に関する手引き」を作成して、職員に周知している。また、「職務分掌」も整備している。現場の職員にとっても、子どもの学用品や日用品、被服の購入などがあり、ルールを知らないと、子どもの不利益につながる可能性もあるので、内容を周知している。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設)	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

性教育・薬委員会、食育委員会、中高リービングケア・スマホ講座委員会、幼小リービングケア委員会の4つの委員会があり、現場の職員はどれか一つの委員会に所属している。リービングケア委員会では、乗り物の乗り方や買物の仕方などに計画的に取り組んでいる。定期的な通院は看護師が付き添っているが、高学年のこどもは付き添いなしで通院することもある。コロナ禍で中止になっていた、地域の福祉ふれあいまつりは今年再開され、中・高校生5人くらいが模擬店の手伝いをしている。地域のサッカークラブやドラム教室、英語教室、塾に通っている子どももいる。また、地域の広報誌を配る仕事を、希望する高校生が行っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティア受け入れマニュアルを整え、副主任が中心になって、ボランティアの受け入れを行っている。事前にオリエンテーションを行い、子どもと交流を図る場合は、職員から子どもの特性を説明したり、振り返りを行っている。また、守秘義務や写真の撮影は禁止していることを説明している。焼き肉店に招待してくれたり、レストランの人を園に招いたり、石鹸作りを行ったり、畑での芋掘りを行ってくれるボランティアが活動している。子どもたちは塾に通っているため、現在、学習ボランティアの活動はない。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

地域の青少年推進協議会や要保護児童対策地域協議会へ、施設長や職員が参加している。また、民生委員・児童委員の見学受け入れや、湘南地区施設連絡会にも参加している。児童相談所とは、定期的に連絡会を開催する他、随時連携している。消防署や警察署、病院、学校とも連携している。里親支援として、里親連絡会に参加し、家庭養育支援センターとしての役割も担っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

地域の青少年推進協議会や要保護児童対策地域協議会、里親連絡会に参加して、地域の福祉ニーズを把握するようにしている。里親支援では、地域の里親サロンを開催し、市の委託事業として、子育て短期支援事業を行っている。地域では高齢化が進行し、身近なところでも、子どもへの虐待が発生していると感じている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域に向けた活動として、市の委託事業の子育て短期支援事業を行ったり、地域のコーラスや老人会、作業療法に会場を提供している。季節外もプールに水を張り、年間を通して、防火用水として使用できるようにしている。施設は津波の避難場所にもなっており、地域のための非常食を防災倉庫に保管している。地域の里子の養育相談や、レスパイトも行っている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

理念は「子どもたちを豊かに愛すること」であり、子どもとの関わりでは、子どもの笑顔や言葉から、職員を信頼して安心している様子がうかがえる。また、職員同士のチームワークを大切にしている。職員が統一した養育、支援を提供するために、「白十字会林間学校の運営」や「白十字会林間学校生活支援要綱」を整備し、職員会議や運営会議、グループ会議で、子どもの尊重や人権の擁護について話し合っている。また、全国児童養護施設協議会作成の「倫理綱領」を、全職員に配布している。さらに、県児童福祉施設職員研究会作成の「養育ブック」を年1回読み返すために、養育ブック週間を設けている。担当になった職員を中心に、感想文の取りまとめを行い、不適切な関わりなどを全職員が意識して支援にあたっている。子どもの尊重について園内研修を企画、実施している。また、障害手帳取得者が約3分の1おり、障害を理解するため、県立子ども自立生活支援センターなどを見学している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○

	○
--	---

□子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。

【コメント】

「白十字会林間学校生活支援要綱」にプライバシーの保護を明記し、各会議で内容を確認しながら支援している。子どもの手紙の開封は許可なくしない、個室に入るときはロックをしてすぐにドアを開けない、持ち物検査をしない、職員は退職した場合は在園児に電話をしないなど、プライバシーに配慮している。中・高校生以上のスマホの取り扱いは、リービングケア委員会が主となり、過金、依存症、詐欺の危険性を伝え、話し合いを行っている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	<p>30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p>□理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p>□施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p>□施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p>□見学等の希望に対応している。</p> <p>□子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>	a	○
---	--	---	---

【コメント】

ホームページに、白十字会林間学校の概要や生活の様子を掲載している。見学時や入所後に「林間生活ガイドブック」を渡し、内容を説明している。ガイドブックは質問形式で、ルビを振り、わかりやすく作成している。ガイドブックは毎年改訂して最新版を各寮に置き、いつでも確認できるようにしている。乳児の入所の際は、写真を見て生活の様子ができるよう、「アルバム」を渡し説明している。入所が決まると、「慣らし」として数回泊まってもらい、在園時と一緒に生活し、安心して入所を迎えるようにしている。特に低年齢児は愛着関係を作るため、担当の職員を決め、その他の職員が複数で支援していくグループ支援を行っている。

②	<p>31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p>□子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。</p> <p>□養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。</p> <p>□養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。</p> <p>□意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。</p>	b	○
---	---	---	---

【コメント】

子どもに慣らしなどの体験を行いながら、納得して入所してもらっている。納得をしても、子どもの気持ちは複雑で、職員は子どもの気持ちに寄り添い愛情を注いでいる。支援開始からは「育成記録」に子どもの状況を記録している。支援開始は児童相談所での手続きになるため、保護者からの同意書は入手していないが、予防接種の同意書は保護者からもらっている。障害手帳の取得は、児童相談所の心理司や医師から保護者に説明している。精神科受診者も多く、本人や保護者に説明をして受診している。特別支援級や支援学校へ入学する場合も、本人や家族に説明して納得してもらい、同意を得ている。

③	<p>32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。</p> <p>□養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。</p> <p>□他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。</p> <p>□施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。</p> <p>□施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。</p>	b	○
---	---	---	---

【コメント】

家庭への引き取りは、家庭の受け入れ調整や保護者の状態の確認などを児童相談所が担当している。保護者の面会や外出、外泊など段階を経て、家庭への引き取りを決定している。家庭に引き取られたが、家族とうまくいかず、再入所の子どももいる。これからの生き方をしっかり見据える機会となっている。重度の障害があり、白十字会林間学校での生活が困難となり、知的障害児施設に移行した子どももいる。移行先の施設には、身体面や生活面、学習面、家族関係などの引継ぎを行っている。退園後も子どもたちに連絡を取り、行事などの参加を促している。在園児と一緒にご飯を食べ、米や日用品を持って帰っている。元担当は卒園生と一緒に食事に行く機会を作り、話を聞いている。費用は施設で負担している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

年1回嗜好調査を行い、子どもたちの好きな食べ物を把握して、献立に反映している。また、月1回、栄養士や生活支援員による食事会議を開催し、生活支援員から子どもの希望などを栄養士に伝えている。不定期ではあるが、子ども会議を寮ごとに行い、生活のルールについての話し合いや、遊びの希望などの話し合いを行っている。海に行きたい、買物に行きたいなど、希望が出たものは実行している。また担当と個別に八景島やディズニーランドなどへの外出の機会を持ち、楽しみながら子どもの気持ちを聞いたり、欲しいものを買ったりする機会を設けている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の取り組みや考え方については、「白十字会林間学校生活支援要綱」に明示している。案内ポスターを食堂前に掲示している。意見箱を設置しているが、利用はほとんどない。直接、職員に話を聞いてもらい、解決していることが多い。希望や要望は、どう対応し、解決してフィードバックしたかを記録に残している。要望や苦情は、個人の問題ではなく、組織の問題としてと捉えている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○

相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。

【コメント】

自立支援計画書作成時だけでなく、「個別に困ったことはないですか」など、子どもの思いを聞く機会を設けている。子どもからは、こんなことがあってどうしようなど、日常生活場面で話しかけてくることが多い。夜、LINEで、子どもから相談があることもある。言葉による表出が難しい子どもは、心理士のプレイセラピーやカウンセリングなどで、気持ちを汲み取るようにしている。卒園して大学に通っている子どもから、お金の相談があり、アルバイトなどのお金の管理を施設で行っている。預かっているお金から、学費や生活費を渡し、安心した生活を送っている例もある。

- | | | |
|---|--|-----------------------|
| ③ | 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすい意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。 | <input type="radio"/> |

【コメント】

日常生活の中で出た子どもからの意見は、「白十字会林間学校生活支援要綱」に取り扱いを記載している。子どもたちには、施設長や生活支援員、看護師、心理士、栄養士など、誰にでも相談ができることを伝えている。子どもたちは、職員を名前で呼んだり、あだ名で呼んだりして、気軽に相談できる体制を作っている。こどもたちからの相談や希望は、すぐに解決できるようにしているが、内容によっては、時間を要するものもある。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

- | | | |
|---|---|-----------------------|
| ① | 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。 | <input type="radio"/> |

【コメント】

敷地が広く、本館や複数の児童棟があるため死角も多い、プールなどの危険な箇所は、プールの係が中心になり、立ち入り禁止箇所を決めている。不審者マニュアルを整備し、防犯カメラを3ヶ所設置し、事故防止に努めている。リストカットなどの危険があるため、包丁類は子どもの入らない職員のワーキングスペースで保管している。事故報告書やヒヤリハット報告書に細かな状況を記載し、毎日の打ち合わせの時、内容を報告している。運営会議で集計し、要因を分析している。子どもの外での不適切な行動なども事故報告書に記載し、不適切な行動という表面だけを見るのではなく、見えない部分で子どもの心に何が起きているのかを見据え、子どもの心に向き合って支援している。

- | | | |
|---|--|-----------------------|
| ② | 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 | <input type="radio"/> |

<input type="checkbox"/>	感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

感染症対策として、ノロウイルスやインフルエンザ、C型肝炎の防止マニュアルを整備している。コロナ禍では、職員がグループラインを作り、勤務の調整をしながら生活が継続できるよう対応している。施設長や看護師が中心になり、感染予防対策の徹底、子どもの隔離などを行い対応している。職員会議では、感染予防対策について話し合っている。C型肝炎や喘息、アレルギー、高次脳機能障害、片麻痺の子どもなどは感染に弱いため、月1回、嘱託医の往診を受けて、感染症の予防に努めている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
<input type="checkbox"/>	災害時の対応体制が決められている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

防災マニュアルや災害時緊急連絡網などを整備している。防災責任者を副主任とし、災害時の職員連絡体制を整えている。災害発生に備え、子どもたちが通っている学校に引き取り者の名簿を渡している。年間の防災計画を作成し、避難訓練を実施している。子どもたちの部屋の本棚などは、転倒防止策を行い、室内の安全に配慮している。施設は、地域の避難所に指定されている。災害時に備え、非常食や飲料水などを3日分、その他毛布などを倉庫に保管している。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「白十字会林間学校生活支援要綱」や「林間生活ガイドブック」を整備して、子どもたちの養育・支援のマニュアルとして、全職員が活用している。自立支援計画の作成は、担当職員やグループリーダー、主任、心理士、児童相談所のケースワーカーが、話し合いを行って作成している。子どもの意向を確認し、職員がどう支援するか目標を立てる「自立支援計画の手順書」を整え、全職員が把握している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<input type="checkbox"/>	養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

月1回開催する職員会議で職員が意見交換をして、「白十字会林間学校生活支援要綱」や「林間生活ガイドブック」「自立支援計画の手順書」などの内容を検討し、見直しを行っている。「林間生活ガイドブック」は、子どもたちも自分の意見を言うことができ、内容の改訂につなげている。「林間生活ガイドブック」は、各寮に置いている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

アセスメントシートという言葉は使っていないが、入所時には児童相談所からの申し送り書があり、それをもとに、児童相談所の心理司や施設の心理士、施設長、看護師、栄養士など専門職種が集まり、アセスメント会議を行っている。子どもの身体状況や心理状況、生活状況、学習状況、家族の情報を総合的に把握して、自立支援計画の策定につなげている。計画作成の責任者は、主任兼家庭支援専門相談員としている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

手順書に基づき、最低年1回の計画の見直しを行っているが、1ヶ月で見直しが必要な子どもや、半年で必要な子どもなど、その子どもにとってタイムリーに見直しを行っているため、時期はまちまちである。評価や見直しが行なされると、朝の打ち合わせ会や各グループ会議、運営会議などで報告し、全職員が周知している。また、文書を閲覧し、パソコンからいつでも内容を確認できるようにしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○

	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>
--	---	-----------------------

【コメント】

パソコンでの記録により、どの部署からもアクセスができるようにしている。書式は統一されたものを使用している。すべての部署で情報は共有できている。記録の書き方の研修は、あまり取り組まれていないことが今後の課題であると認識している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

記録の管理責任者は施設長としている。「個人情報保護管理規程」を策定し、子どもや保護者の情報は外部には出さないことを職員に周知している。個人の記録は、子どもの入らない寮内のワーキングスペースに保管している。5年後の記録の廃棄は行っておらず、開所当初からの記録を保管している。障害手帳取得のため、50代の卒園者の幼少期の状況を開示をするなど、卒園してからも記録は必要になることがあるため、すべて保管することになっている。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの権利擁護については、「白十字会林間学校生活支援要綱」に記載し、職員会議の開催時に、その都度、意見交換を行っている。生活支援要綱週間では、権利擁護全般について、職員間で取り組みを確認している。また、児童相談所が主催する外部研修では、全国の事例を用いた研修を受講し、内部研修では、虐待防止について情報交換を行い、支援者側の感情コントロールの方法について学んでいる。宗教上食材の制限がある子どもが一人いるが、思想を尊重し、他の食材で提供している。年2回の個別面談や意見箱で子どもの思いを汲み取っている。

(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	

<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

林間生活ガイドブックに、「あらゆる暴力から守られていること」「自分も大事、他人も大事」をうたい、自分との違いは良し悪しではなく「お互いを認め合うことが大事」と分かりやすく説明している。また、権利ノートは、入所時に児童相談所から説明し渡している。自己管理している子どももいるが、職員へ預ける子どももいる。毎日の生活の中で思いやりを育てる支援として、職員の態度が、子どもに与える影響が大きいと捉え、経験年数が上の職員ほど、態度や言動に気をつけるよう、職員会議や運営会議で確認し合っている。

(3) 生い立ちを振り返る取組

① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

成長の記録として、アルバムを作成している。業務の中にアルバム作成日を設け、職員間で足りない部分を補い合っている。また、1年間の行事の動画をDVDにして、各寮に配布している。生い立ちの告知については、告知内容や方法、タイミング、フォローなど、児童相談所と入念に打合せをして対応している。家族にも告知の内容を事前に伝えている。伝えない事が最善と判断した時は、判断理由を児童相談所や家族、職員間で共有している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもへの虐待の防止は、「白十字会林間学校生活支援要綱」に記載し、職員会議や生活支援要綱週間で、読み合せや意見交換を行っている。また、園内研修では、クールダウンの方法などをテーマにして意見交換を行っている。不適切な場面を確認した時は、別の職員からも話を聞くよう配慮して予防につなげている。施設内に賞罰委員会を置き、施設長が中心となり権利擁護の専門家の意見も聞きながら、検証や対応を行っている。ここ数年、賞罰委員会対象の事例はない。意見箱や年2回の子どもの面談で、不適切な関わりの把握に努めている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り継続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

乳児院からの入所は、短時間から始め、5～7回、慣らし体験を行っている。措置変更で入所した子どもについても、前職員と可能な限り関係が維持できるようにしている。入所した日には、好きなメニューにしたり、事前に好きな色の寝具などを用意するなど、少しでも不安を取り除くようにしている。入所前の友人関係も大切にし、電話の他、一緒に遊んだりすることも可能としている。家族との関係を大切にして、措置の経緯にもよるが、児童相談所と相談しながら、可能な限り交流できるようにしている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

リービングケア委員会では、幼児期からバスの乗り方など、社会生活に向けた取り組みを行っている。NPO法人のアフターケア機関や、あすなろサポートステーションとも連携し、退所後のケアを実施している。就職の保証人を職員が担ったり、通帳の一部預かりの依頼もある。仕事や進学に失敗した場合、隣接する職員宿舎で生活を立て直すことも可能としている。退所後も行事へ招待したり、他の子どもや職員と食事をしたりしている。また、食材などの寄付品を提供している。卒園した子どもとの外食費用は、上限を決め施設が負担している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本

①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	第三者 評価結果	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。		○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。		○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。		○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。		○

	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	
--	--	--

【コメント】

子どもの様子に変化がある時は、グループ会議で「本人に起こっている現象や背景」を協議、共有して見守っている。必要に応じて、児童相談所や学校、医療職などの意見を参考にしている。子どもを理解するため、受け入れるまでの経緯を職員会議で共有し、生育歴を年表にして記録している。緊急な案件については、担当職員や支援職員、主任、リーダー、心理士などで園内カンファレンスを開催して、対応策を検討している。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

子どもたちの欲求は、まずは受容した上で、基本的な考え方を示し、柔軟な対応も可能であることを説明している。小学1年生までは、就寝前の時間に一対一で関わり、学校の話をしたりトランプをしながら、子どもの思いや希望を聞いている。学童寮は、2つの寮の間に職員のワークスペースと宿直室がある。宿直者が1名であるため、子どもの安心感につながるかは課題があると感じている。今後は、措置延長の18歳以上の子どもに対し、どのように支援していくかにも課題があると感じている。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

子どもの主体性を尊重し、職員が統一した支援を提供できるよう、職員会議で話し合いを行っている。子どもたちは、子ども会議の場で、自分たちの問題を話し合っている。アルバイトには特に縛りを設けず、子どもの希望を尊重している。子どもたちは門限の時間を守りながら、自分で判断して行動している。小遣いも子どもが考えながら使っている。小遣い帳を付け、月1回、職員に見せている。「子どもを主体とし、本人にとっての最善策を常に検討して、一括りにしない支援」を目指して取り組んでいる。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○

<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が充分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

個々の発達段階に応じた養育の計画を立て、年度途中のニーズについては、グループ会議や運営会議で検討している。塾や通信媒体での学び、地域のサッカーチームやドラム教室に通うなど、外部の資源も活用している。パソコンは共用で使用できるようにしている。新聞や子ども新聞、図鑑の他、子どもが好む漫画本などを定期的に購入している。一人ひとりに自転車を用意し、スケートボードやサッカーなどの道具を揃え、子どもたちは広い敷地で、のびのびと遊んでいる。音楽の好きな子どもは、講堂で、楽器を使用することもできる。図書館などの公共施設に出かけている子どももいる。学習ボランティアは、ニーズに合う担い手がいないため、現在は受け入れを行っていない。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

基本的な生活のルールは、林間生活ガイドブックに記載し、子どもの自主性を尊重しながら、社会規範を習得できるようにしている。ピアスの使用や髪の毛の色について、施設では縛りはないが、学校やアルバイト先のルールに照らし合わせ判断できるよう支援している。スマホについては、希望すれば中学1年生から貸し出しているが、危険性もあるため、使用前に「スマホ講座」の受講を必要としている。使用後も、各寮で約束事の振り返りを行い、トラブルを防止している。高校生になるとスマホの契約や、預金の引き下ろし、住民票などの手続きができるよう支援している。幼小リービングケア委員会では、子どもたちに地域の公園のマナーや公共交通機関の乗り方を教えている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の食事は、食堂で調理した物を各寮で温めて提供している。部活やアルバイトで遅くなる子どもにも、温かい食事を提供できるよう配慮している。各寮で夕食時間の目安を決めており、皆と一緒に食べられるようにしている。献立の希望などを聞き、食事会議の場で、メニューや盛り付け量などを検討している。子どもたちは季節料理やイベント食、誕生日のリクエスト食などを楽しんでいる。1週間の献立表に調理のレシピなどを掲載し、調理実習や高校生の一人暮らし体験に活かして、卒園後の食生活の自立につなげている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年間の衣服や靴代は年代別に決まっている。子どもだけで買物に行く時もあるが、年齢の低い子どもや、子どもの希望に合わせて、職員と一緒に出かけ、好みの服を購入している。七五三などの晴れ着は、施設で用意してあるものを使用している。洗濯は職員が行い、個別の籠に入れておき、自分たちで自室に収納する約束だが、リビングに長い間残っている時もある。衣替えは、職員とともに行っている。好みの柔軟剤を使用したくて自分で洗濯する子どももいるが、中・高校生に対しては、自分でできるよう支援している。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生以上は個室を使用し、ベッドや学習机など、好みのレイアウトで、落ち着いた空間を作っている。掃除や整理整頓を声かけしているが、職員が手を貸す時もある。年2回、寮内の大掃除を、子どもと職員で行っている。居室にポスターを貼る時の注意点など、林間生活ガイドブックで、わかりやすい言葉で周知している。修繕が必要な箇所は、すぐに対応している。現在、8名の子どもが同じ寮で生活しているが、小規模制としては6名の生活がベストと捉えている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

看護師を中心に、医療機関や学校などと連携し、子どもたちの健康管理を行っている。年齢や病状に応じて、受診や服薬の必要性を理解できるよう支援している。エピペン（アナフィラキシー）の講習会を職員全員を対象に実施する他、職員会議で医療に関する学習会を行っている。急変時のフロー図を作成し、全職員が内容を把握している。アレルギー体質の子どもの調理は、調理器具も区別している。薬は医務室で管理し、1週間分を各寮に渡している。性教育・薬委員会があり、飲み忘れ防止などに取り組んでいる。発達障害などで行動制限のある子どもには、心理士や看護師、学校、児童相談所などと連携しながら取り組んでいる。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

性教育・薬委員会があり、子どもたちに性教育を行っている。必要に応じて、児童相談所の保健師を招くこともある。生理を迎える年頃の子どもの対応など、グループ内職員の他、全体で対応する環境を整えている。異性の友達についてなど、職員に気軽に相談や報告ができるよう、信頼関係を築くようにしている。自立支援計画書に性教育項目はあるが、個別対応が必要な子どもについては、看護師や児童相談所の保健師と連携しながら対応している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもの暴力や暴言に対しては、早急に施設長または主任、副主任に報告する体制を整えている。事案によっては、早急に園内カンファレンスを開き、原因を探り、対応策を検討している。子どもからも事情を聞いている。表面の問題のみに着目するのではなく、背景にある要因を探って対応するようにしている。事案に応じて、学校や児童相談所にも連絡している。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○	

【コメント】

林間生活ガイドブックに、「あらゆる暴力から守られている」ことを明記し、暴力の具体的な内容と範囲を示している。また、「自分も大事、他人も大事」として、自分と違う存在を認めることの大切さを示している。いじめや暴力などの実態把握も含め、年2回、子どもとの個別面談を実施している。配慮が必要な子どもについては、児童相談所とも相談し、必要があれば医療機関へつなげている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

臨床心理士を配置し、グループ会議や運営会議に参加して、日頃の支援に対する助言を行っている。心理的ケアが必要な子どもは10人以上おり、児童相談所とも連携しながら、面接室やプレイルーム、グループワーク室を適宜利用しながら、臨床心理士がプレイセラピーやカウンセリングを行っている。心理的ケアについては、児童相談所や精神科の医師など、外部の専門家と相談できる体制を整えている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

自室での勉強の他、静かな図書室や講堂も利用して、子どもたちは学習している。また、塾や通信媒体を利用して子どももいる。通常級での学習が苦手な場合には、学校と相談し、個別の授業（他の教室での）や本人が対応できる宿題の量にしている。「登校前の支度」「忘れ物を届ける」「宿題のサポート」などを、職員が支援している。学習ボランティアは、ニーズに合う担い手がいないため、受け入れは行っていない。状況に応じて、特別支援学校やサポート校を選択している。また不登校の子どもには、あすなる教室（公立の不登校対応教室）への登校も選択肢に入れている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労（支援）しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

進路については、子どもの希望を確認しながら、学校とも連携し、子どもに情報を提供している。金銭的な情報として、修学支援金や一人暮らしの費用を個別に説明している。進路決定が近づく頃には、より具体的に、貸付金や奨学金の利用、進学、就職に関わらず、林間ハウス（職員宿舎）の利用が可能なことなど、情報を提供しながら自己決定のサポートを行っている。また、状況によって、継続して施設利用や林間ハウスの利用などができていることを伝えている。支援学校卒業後の暮らしについては、アパートやグループホームの移行支援として、一人暮らし体験も用意している。社会的養護自立支援事業を利用しているのは、現在、一人だけである。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

社会経験や余暇時間の健全な活用から、部活に入っていない子どもには、アルバイトを積極的に奨励している。アルバイト先は、ラーメン店やスーパーマーケット、飲食店が多い。林間生活ガイドブックで、「未成年が働く場として好ましくない店舗や時間（2時間が上限）」などを示している。特別支援学校に通っている子どものアルバイト先は、希望を聞いて職員が開拓している。職場体験の希望者は、あすなるサポートステーションを利用して行っている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

主任が家庭支援専門相談員を担い、家庭からの相談に応じている。家庭との良好な関係の構築を目指し、毎日の電話や週に数回の交流に対応している。外出や外泊後の子どもの様子から、不適切な関係が疑われる場合には、支援員や心理士が子どもに話を聞いて対応している。言葉で発信できない子どもについては、生活の様子から思いを探り、児童相談所と協働で対応している。措置入所の特性から、家族に対して情報をどこまで伝えるかは、その都度、児童相談所も交えて検討している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に、親子関係の再構築を支援している。施設内の親子支援室での家族宿泊や、一時帰宅で、家族関係の再構築に取り組んでいる。家庭への外泊については、短期間から少しずつ日数を増やし、子どもの様子を確認しながら対応している。家庭復帰につながったが、再度、施設に戻った子どももいる。